

災害に備えてください

## 備蓄品の確認と準備を

問い合わせ先  
防災安全課 (☎027-321-1352)

地震などの災害時は、水道やガス・電気などのライフラインが寸断されたり、食料の入手が困難になったりします。日頃から、各自で災害に備えることが大切です。缶詰やレトルト食品、飲料水などの備蓄品の確認と準備をしてください。乳幼児や高齢者・障害のある人のいる家庭では、粉ミルクや紙おむつ、介護用品などの用意も必要です。他にも懐中電灯や電池、カセットコンロと予備のボンベ、携帯ラジオなども準備してください。

非常時の持ち出し品のリストなど詳しくは、市ホームページやハザードマップで確認できます。



市ホームページ

## 防災士に聞きました

### 日頃の備えが自分の命を守ります



日本防災士会群馬県支部長  
赤羽潤子さん

災害時、自分の命は自分で守らなければなりません。大規模災害時は、道路が寸断されたり土砂崩れが発生したりして、自衛隊や消防などの救助や支援物資が到着するまでに時間がかかります。支援が届くまでの間、自分の命を守るために、最低3日分は備蓄品を用意しておいてください。また、いざという時には地域のつながりも大切です。今回の災害でも、地域住民同士で声かけをしたり協力し合っている場面が多く見られます。普段から家族や地域の人とコミュニケーションを取って、災害時の避難先や避難行動などを共有しましょう。もしもの時を想定して、普段から備えてください。

## その他の支援内容 (2月1日現在)

市は、1月12日から物資の提供や職員の派遣などを行っています。今後も被災地からの要請に応じて、支援活動を続けていく予定です。

### 物資などの提供やライフラインの復旧

#### ●物資の提供

石川県からの要請で、段ボールベッド100個を提供しました



#### ●給水車を派遣

1月12日からこれまでに水道局の職員16人が断水地域で給水活動を実施しました



#### ●水道管復旧工事

2月13日から高崎水道工事業協同組合6人と水道局の職員3人が水道管の復旧工事を実施します

### 職員の派遣

#### ●保健師による健康管理

1月22日からこれまでに2人の保健師を派遣。自宅や避難所などで避難している方への健康管理を実施しました

#### ●建物応急危険度判定

被災した家屋を調査し、倒壊の危険性を判定するため、1月18日からこれまでに建築関係部署の職員2人を派遣しました

#### ●建物被害認定調査

被害を受けた家屋の損害割合を調査するため、1月14日からこれまでに4人を派遣しました



### 被災者の受け入れ

#### ●被災された方への住宅の提供

被災された方の一時避難先として無償で提供する、市営住宅を50戸用意しています

# 令和6年能登半島地震 消防・市職員による支援活動



1月1日、マグニチュード7・6を観測する大規模な地震が能登半島で発生しました。大きな被害を受けた被災地では、1か月が経過した今もライフラインの復旧作業が続く、多くの方々が避難所や県内外の宿泊施設などの生活を余儀なくされています。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域の一日も早い復旧と復興を祈念申し上げます。

**本市の災害支援**

市は、地震発生を受け、被災地を支援するため、消防や市の職員を派遣しています。発生当日の1月1日、高崎市等広域消防局が緊急消防援助隊として被災地に向け出発。順次後続の部隊を派遣し、寸断された道路の調査や損壊した家屋内の探索、負傷者の搬送などを、全国から集まった消防隊と連携しながら行いました。これまでに延べ115人の消防職員が派遣され、1月12日からは市の職員の派遣なども始まっています。

市ホームページ



## 被災地で救助活動を行った隊員に聞きました

特別救助隊長 剣持聡さん



緊急消防援助隊3次隊の高崎部隊29人の救助小隊長として、1月6日から9日に被災地で活動しました。気持ちははやるものの、道路の寸断や土砂崩れでなかなか現場にたどり着けず、歯がゆい思いでいっぱいでした。土砂で倒壊した、海岸沿いの家屋の捜索では、緊急地震速報が何度も鳴り、余震による土砂崩れや津波の危険と隣り合わせの緊迫した現場でした。地震発生からはすでに130時間が経過していましたが、生存者がいるかもしれないという望みを持ち、1人でも多くの命を助けたいという思いで、全員で力を合わせて任務に当たりました。今回の経験を隊員同士で共有し、これからも市民の安心安全を守っていきます。